

その時、あなたは

食の未来も選んでいます。



日々のお買い物や食事は子どもたちの食の未来につながっています。食料の約6割を海外に頼る日本。いざという時に食料に困らないためにはどうすればいいのでしょうか。それには・・・

JAグループサポーター 林修



私たちの国で

消費する食べものは、



できるだけこの国で生産する

国消費国産を進めていくことが大事です。そのために私たちが普段からできることは、「国産を選んで食べる」こと。それは、子どもたち世代の「食の未来を選ぶこと」なのです。

米作りは、くらしや環境を

守ることにもつながっています。

お米が食卓に届くまでには、多くの工程が必要です。収穫できるのは基本的には1年に1回。お米はすぐには生産できないのです。



生産者を支える
JAグループの
取り組み

お米の種もみ、
肥料、機械の提供

高温に強い品種の導入
など、高温対策への支援

ドローンによる農薬散布
など、スマート農業への支援

米作り

10月以降

土づくり



4~5月

田植え



6~8月

防除



追肥



9月

稲刈り



生産したお米を消費者に届けるためのJAグループの役割

精米



輸送



低温保管



乾燥・調整

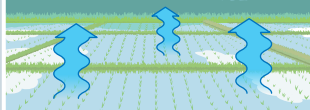


米作りを支えることは、私たちのくらしの安心を守ることにつながります。

天然のダムとして機能し
洪水や土砂崩れを防ぐ



水田の水が蒸発することで
気温の上昇を抑える



耕そう、大地と地域のみらい。JAグループ千葉